

# 社会人講師によるガーデニング実習

農業科 石井 克佳 白石 充

**要旨** 社会人講師を学校に招き、授業を行う事例は本校においても数多く実践されている。生物資源・環境科学系列3年次科目「ガーデニング」において、地元の造園業専門家を招き日本庭園を造る実習を行った。本実習は埼玉県職業能力開発協会の「熟練技能者派遣制度」を活用した事例である。

**キーワード** ガーデニング 造園業 社会人講師 キャリア意識形成 地域連携

## 1. はじめに

科目「ガーデニング」は生物資源・環境科学系列3年次系列選択科目である。科目の目標は、「花壇づくりを通して、花壇のデザイン方法、植え付ける草花の選定方法、花壇の整備方法などについての学習」と「環境問題と関連させながら実験・実習を行い、花や樹木を通して将来も自分で環境問題を解決する力を身につけること」である。

平成19年度の授業は2単位(週あたり2時間)で、この科目を選択した生徒数は男子9名、女子14名、合計23名である。年間の授業内容については、草花を中心とする分野と、土木・造園を中心とする分野からなるが、両方の分野を全員が学習している。学習内容は下記の通りで、実習が中心の科目である。

(1)草花を中心とする分野に関しては、草花の分類や栽培に関する内容、フラワーアレンジメントなどを取り扱っている。今年度は、「ジャパンフラワーフェスティバルさいたま2007」に出品した。本校文化祭でも作品を展示し、授業ではそのための実習を行った。

(2)土木・造園を中心とする分野に関しては、平板測量による簡単な地形の測定方法、竹を使った生け垣づくり、和風庭園のプランニングなどを取り扱っている。例年、校内の竹林から材料を調達して、四つ目垣を作成していたが、造園を専門分野とする教員が校内にいないため、技術の習得等において不十分な部分があった。そこで、今年度はこの分野の専門家を社会人講師として迎え、四つ目垣のみならず日本庭園の造り方を含めた技術を学ぶこととした。

## 2. 社会人講師を迎える計画

社会人講師を迎えるにあたり、埼玉県職業能力開発協

会が実施している「熟練技能者派遣制度」を利用した。この制度が実施される背景としては、団塊世代の大量退職に加え、少子化による若年世代の減少から、産業界では人材育成を今までに増して迅速に行わなければいけないという危機感が挙げられる。産業界で必要な基本技能を身につけた即戦力となる若者が必要とされていることを受けて、埼玉県では農業や工業の分野を学ぶ高校生を対象に、「将来の実際の就業を意識した職業観を形成することや、実践的な技能の修得」「企業実習を含めた教育」「技能検定の資格を取得できるよう支援」するための施策を展開している。

今回この制度を利用して、「竹を使った庭園造り(垣根・植栽・自然石を含む)」の実習を計画した。講師として、鶴ヶ島市で造園業を営む、小川英武氏(総合造園業「豊美園」代表取締役)ほか1名を指導者に迎え、科目「ガーデニング」を担当する教員とティーム・ティーチング形式による、10回の実習を計画した。

土木・造園に関する分野では、1学期に平板測量を学び、測量の基礎を学んだ。その後、2学期に入り、同じ場所で社会人講師による日本庭園の造り方を学んだ。実習計画と内容は表1に示すとおりである。

表1 実習計画と実習内容

実施回数	実施期日	実習内容	班
第1回	10月2日	VTR視聴、いぼ結び練習	1班(A組C組)11名
第2回	10月9日	竹の選別、竹磨き	1班(A組C組)11名
第3回	10月16日	竹切り、親柱・間柱立て	1班(A組C組)11名
第4回	10月23日	VTR視聴、胴縁、いぼ結び・からげ結び	1班(A組C組)11名
第5回	10月30日	四つ目垣完成	1班(A組C組)11名
第6回	11月6日	VTR視聴、いぼ結び練習	2班(B組D組)12名
第7回	11月13日	竹の選別、竹磨き、親柱・間柱立て	2班(B組D組)12名
第8回	11月20日	胴縁、いぼ結び・からげ結び	2班(B組D組)12名
第9回	12月4日	四つ目垣完成	2班(B組D組)12名
第10回	12月11日	石の設置、植栽	2班(B組D組)12名

### 3. 実践の様子

生徒24名を2つの班に分け、5週連続して日本庭園づくりの実習を行った。2つの班ともに天候に恵まれ、予定通り実習を行うことができた。毎回の授業の展開は、授業開始時に本校教員が出欠確認を教室で行い、実習記録用紙を配布した。必要に応じてプリントを配布したり、日本庭園造りに関するVTRを視聴した。本時の目的・実習内容、注意事項、専門用語について説明を行った後、実習地(野外)に移動した。実習地では社会人講師による四つ目垣や日本庭園造りの技術指導が行われた。生徒は、社会人講師による技術指導を受け、その実習内容を記録、用紙に記入し本校教員へ提出した。本校教員が生徒の書いた実習記録を添削し、評価に加えた。成績に関しては定期考査・実習記録・実習態度を総合し、草花分野とともに評価した。実習記録の提出状況は、概ね良好であった。後半部分に実習風景と、図16に平面図を示す。

### 4. 実践の効果

10回の実習を終えて、アンケート調査を実施した。実習に参加した生徒23名全員から回答を得た。選択式のアンケート調査は各質問内容を「好き(1点)―どちらかといえば好き(2点)―どちらかといえば嫌い(3点)―嫌い(4点)」あるいは「そう思う(1点)―どちらかといえば思う(2点)―どちらかといえば思わない(3点)―そう思わない(4点)」のように、4段階評価で回答することとした。したがって、回答の平均値が2.5より少なければ肯定的な傾向を、2.5より多ければ否定的な傾向を示していると考えられる。平均値に関しては、便宜的に最も肯定的(1.52)、かなり肯定的(1.74~1.96)、肯定的(2.00~2.17)、否定的(2.61)の4段階に分類した。図1~14に各質問項目に対する回答の比率を円グラフで示し、図15に各質問項目の結果から得られた平均値をレーダーチャートで示した。

#### (1).生徒の興味・関心(図1.2.3.4)

まず、生徒の特性を知る上で、興味・関心についてのアンケート結果について検討する。

「1.あなたはガーデニングの授業が好きですか」という質問に対し、好き(8.7%)、どちらかといえば好き(60.9%)、どちらかといえば嫌い(26.1%)、嫌い(4.3%)、回答の平均値は2.61(やや否定的)であった。授業全体に関する自由記述を見ると否定的な理由として、「わかりにくい授業がいくつかある」「授業内容の方向性が定まっていない」「講義は好きではない」などが挙げられる。肯定的な理由として、「良い経験ができて、とても勉強になった」「普通に生活していたら習わないような

事」「予想していたよりもはるかにハイレベルな授業だった」などが挙げられる。

「2.農場や野外での実習は好きですか」という質問に対し、好き(47.8%)、どちらかといえば好き(52.2%)、どちらかといえば嫌い(0.0%)、嫌い(0.0%)、回答の平均値は1.52(最も肯定的)であった。この結果は、この科目を選択している生徒本来の特性を表している。科目選択の際にも、フラワーアレンジメントや庭園造り等、実習中心の授業内容であることを示しているが、生徒はそれらの実習を期待して選択していることがわかる。

「3.花や樹木などの植物を育てることが好きですか」と「4.あなたは資格取得に興味や意欲がありますか」という質問に対し、どちらも肯定的回答が7割、否定的回答が3割だった。回答の平均値はともに2.00(肯定的)であった。2つの質問内容に否定的回答が含まれているのは、質問内容がこの科目の目標と直接一致するものではないためと考えられる。

このように、生徒はガーデニングの授業内容全体に対しては、多少不満を感じている事がわかる。また、農場や野外での実習を好み、花や樹木を育てることではなく、資格取得を目的としている訳でもないことがわかる。では、何が目的でどんな内容を期待しているのだろうか。これについて、引き続きアンケート結果を見ることとする。

#### (2).社会人講師に対して(図11.12.13.14)

「11.社会人講師の説明はわかりやすかったと思えますか。」という質問に対し、そう思う(34.8%)、どちらかといえば思う(56.5%)、どちらかといえば思わない(8.7%)、そう思わない(0.0%)、回答の平均値は1.74(かなり肯定的)であった。「12.庭園づくりや造園業の専門家を身近に感じるようになりませんか」という質問に対しても、ほぼ同様の結果を得た。「13.庭園づくりや造園業に対する興味・関心が増加しましたか」と「14.庭園づくりや造園業に具体的なイメージを持つようになりましたか」という質問に対し、どちらも肯定的回答が8割、否定的回答が2割だった。回答の平均値はともに1.96(かなり肯定的)であった。これらの結果から見ると、社会人講師を迎えて計10回の実習を行うという試みは、実習内容に関する生徒の理解が進むと同時に、造園業の仕事の中身やそこで働く造園家に対するイメージが具体化し、生徒のキャリア意識の形成につながったと考えられる。

#### (3).授業内容に対して(図6.7.8.9)

次の3つの質問に対し、いずれも肯定的回答が7割5分、否定的回答が2割5分であった。

「6.日本庭園づくりの実習は面白いと思いませんか」平均値1.91(かなり肯定的)、「7.実習内容は難しかったですか」平均値2.17(肯定的)、「9.またこのような授業があったら参加したいですか」2.13(肯定的)となった。これらの結果から見ると、生徒は庭園づくりの実習に対して、面白さと同時に技術を習得する難しさを実感し、今後も機会があれば造園の実習に参加したいと考えていることがわかる。

「8.授業内容は自分なりに理解できましたか」という質問に対し、肯定的回答が9割、否定的回答が1割だった。回答の平均値は1.83(かなり肯定的)であった。実習内容は、造園技術検定3級の実技試験に匹敵する内容であることを考慮すると、社会人講師によるこの実習は、生徒の興味・関心を高めるとともに、専門的な知識や技術の習得にも良い影響を及ぼしていると言えよう。

#### (4).将来への希望・意欲(図5.10)

「5.あなたは将来も花や樹木などの植物を、生活の中で育てたいと思いますか」という質問に対し、肯定的回答が8割、否定的回答が2割だった。回答の平均値は1.91(かなり肯定的)であった。この実習を通して花や樹木を身近に感じ、将来も生活に取り入れていく意欲が高められた。科目の目標が達せられていることがわかる。

「10. 造園の検定試験や庭づくりに、自分でも挑戦したいと思いませんか」という質問に対し、そう思う(13.0%)、どちらかといえば思う(26.1%)、どちらかといえば思わない(47.8%)、そう思わない(13.0%)、回答の平均値は2.61(否定的)であった。今回のアンケート結果では、唯一否定的回答が多かった質問項目である。。

造園技術検定は、主に農業高校の造園学科等で学ぶ生徒たちを対象としている。本校の場合は総合学科であるため、造園に関する科目はこの科目が唯一である。したがって、造園分野に関しての知識や技術を、入学時から積み重ねていくことは困難である。そのような状況からこの質問に対する回答の多くが否定的であったと考えられる。だが、高等学校在学中に造園分野の資格取得がかなえられなくても、この実習を契機として、卒業後の進路によっては将来資格取得が可能になると考えられる。(2)の結果から生徒のキャリア意識は高められているので、すぐに効果が現れなくてもよいのではないかと。

## 5. まとめ

生徒のアンケート結果をもとに、社会人講師によるガーデニング実習を振り返ったところ、次のような結論に至った。

(1).この科目を選択した生徒の興味・関心は、農場や野

外で行われる、フラワーアレンジメントや庭園造り等、実習中心の内容であることがわかった。

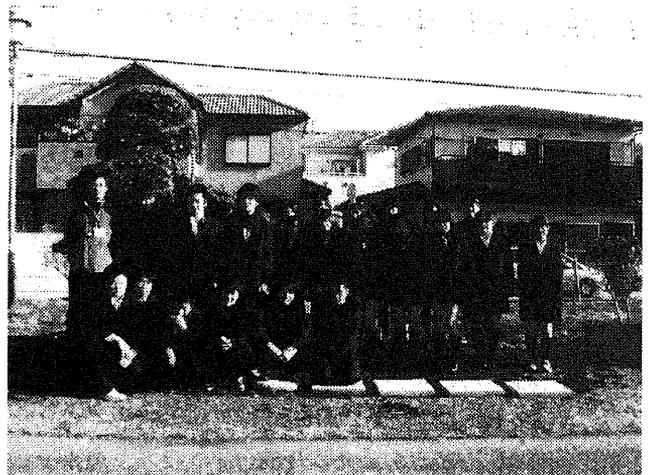
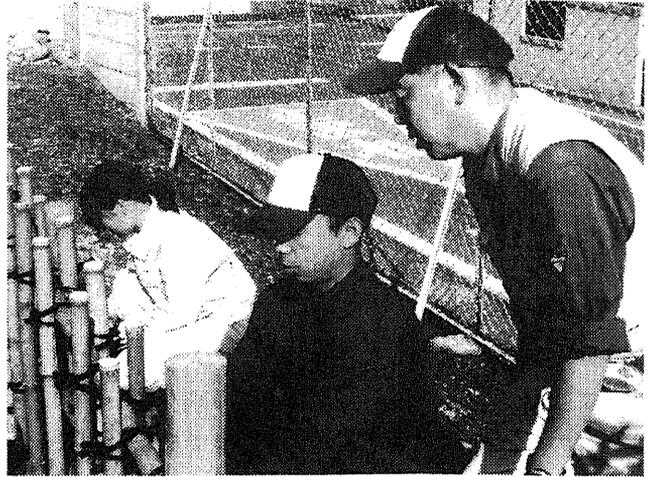
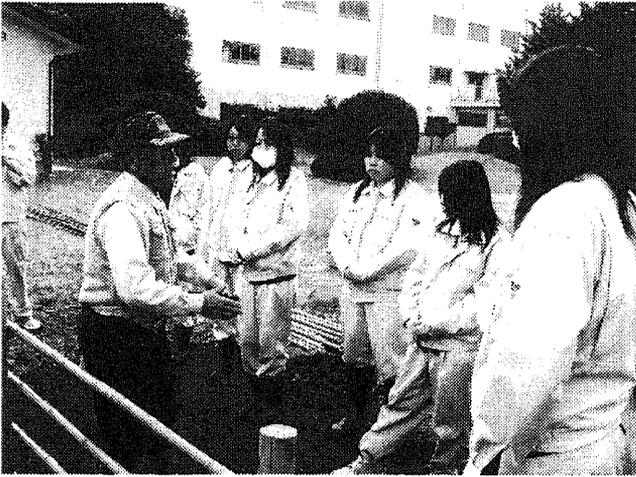
(2).社会人講師から直接技術指導を受けたことは、生徒の技術習得のみならず、造園業に対するイメージを具体化し、生徒のキャリア意識を形成した。

(3).授業内容に関しては、難しさがつまらなさに結びつくのではなく、むしろ反対に、技術習得の困難さを乗り越えていく過程に面白さを発見した。社会人講師による実習は、生徒の興味・関心を高めるとともに、専門的な知識・技術の習得にも良い影響を及ぼした。

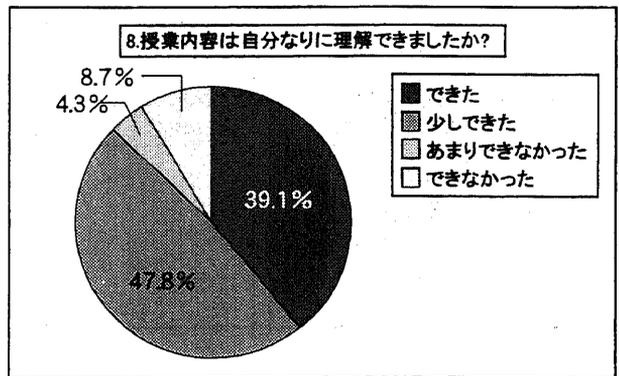
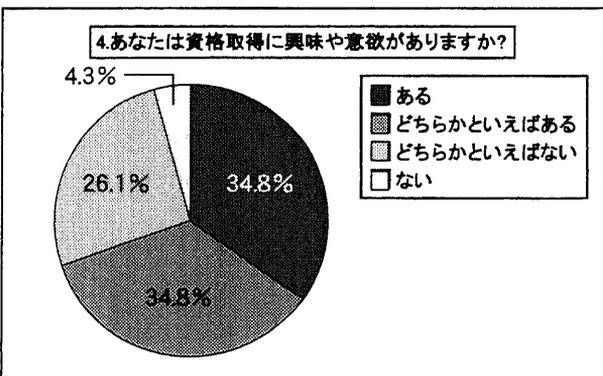
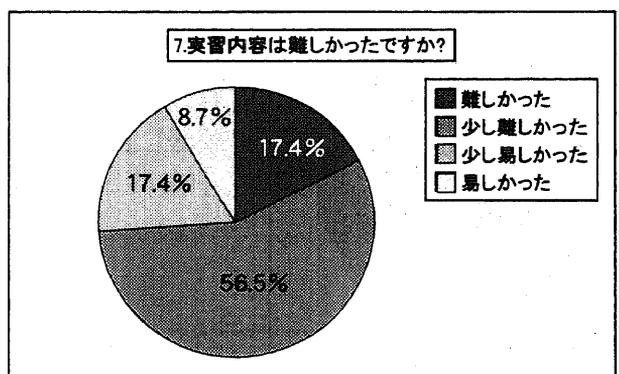
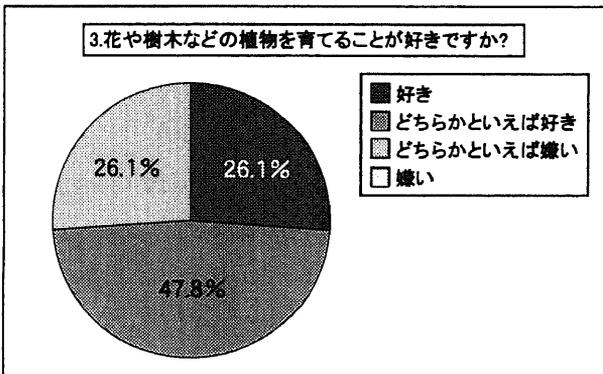
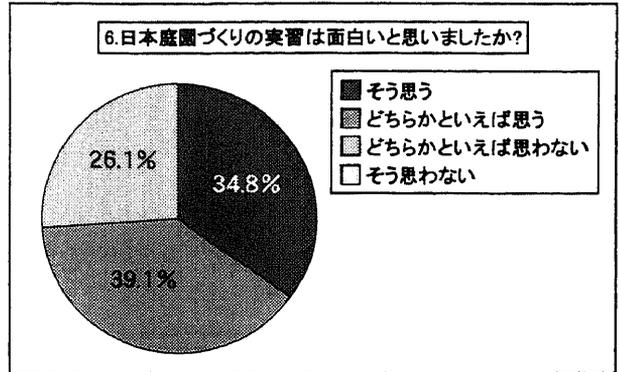
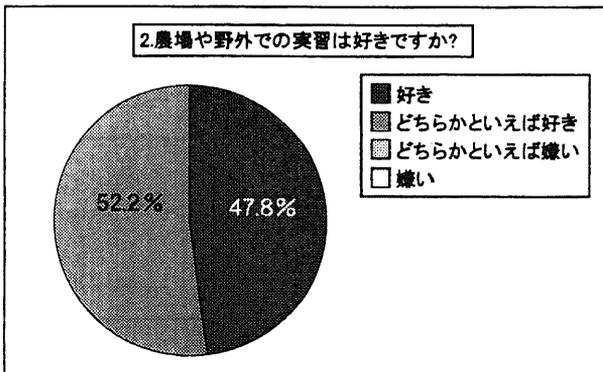
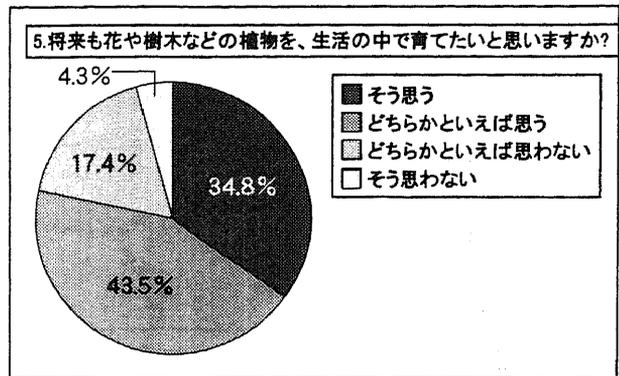
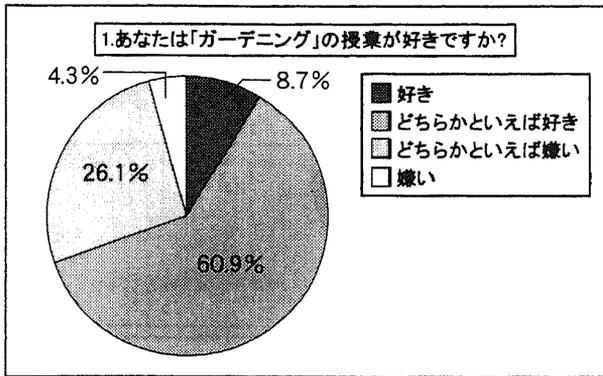
(4).将来への希望・意欲に関しては、花や樹木を身近に感じる事ができた。この実習が将来も生活の中に取り入れたいという生徒の意欲形成に役立った。一方で、すぐに造園技術の資格取得を望んでいるわけではないことがわかった。

(5).その他 余談だが、担当した本校教員にとっても専門家の技術と指導法を直接見ることができ、この実習が日頃の授業を振返る良いきっかけとなった。また、地域で営まれている造園業の実態を把握することができ、地域との連携を進めていく上でも大変役に立つ取組みであった。

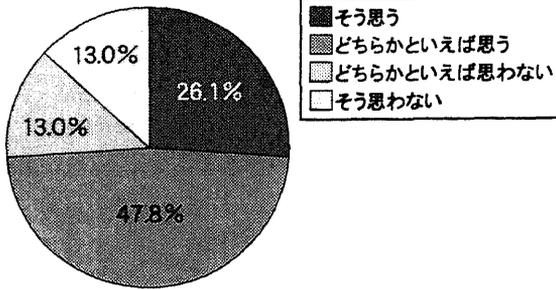
実習風景



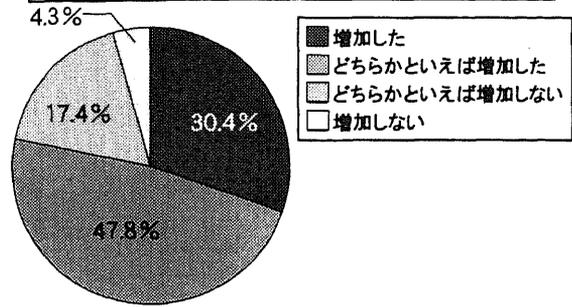
アンケート結果 図1~14



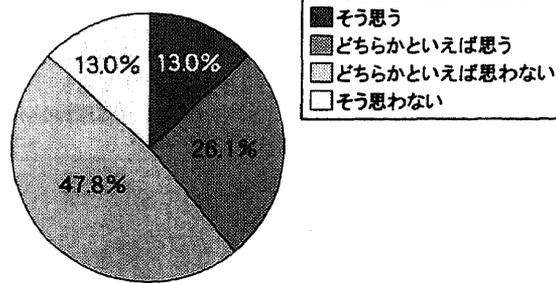
9.また、このような授業があったら参加したいですか？



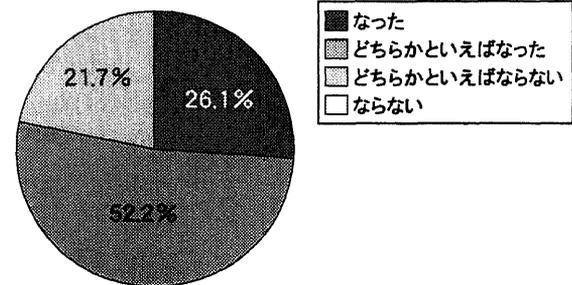
13.庭園づくりや造園業に対する興味・関心が増えましたか？



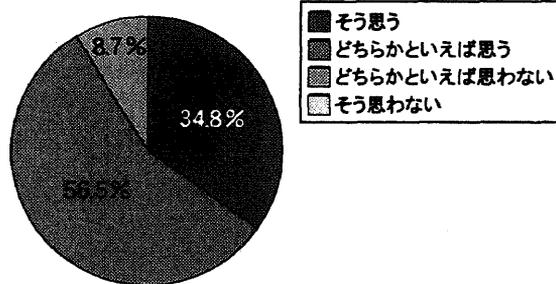
10.造園の検定試験や庭づくりに、自分でも挑戦したいと思いますか？



14.庭園づくりや造園業に具体的なイメージを持つようになりましたか？



11.社会人講師の説明はわかりやすかったと思いますか？



12.庭園づくりや造園業の専門家を身近に感じるようになりましたか？

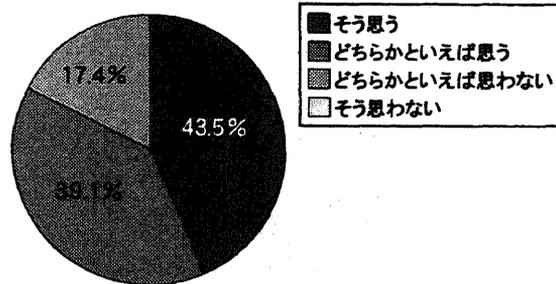


図15.各質問の平均値

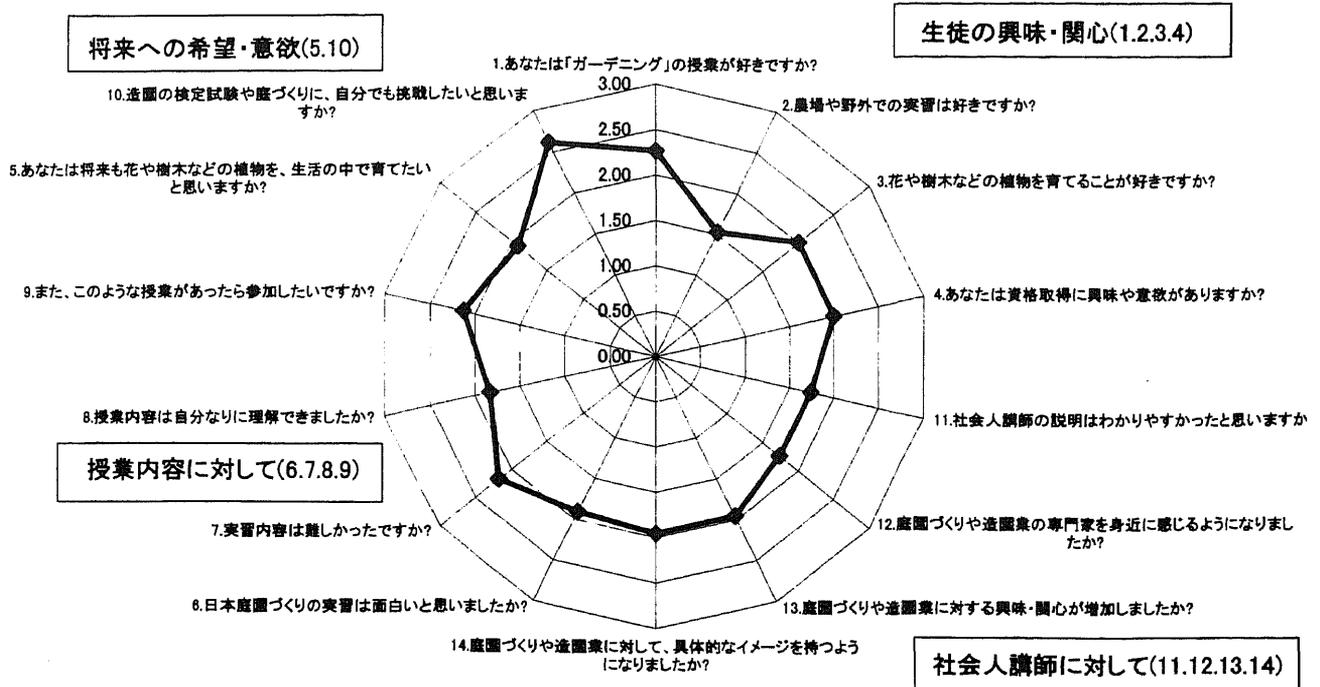


図16 平面図

